2006 年度

「愛を選ぶという生き方の一考察
―物語を『ア・コース・イン・ミラクルズ』で読み解く―」

立命館大学応用人間科学研究科
対人援助学領域
人間形成・臨床教育クラスター
笠間　文耀

本論文の主題は、心の平安と社会の平和を実現するための平和的な方法を模索することである。個人の平安と社会の平和をどのように築き、それらがどのように連関しているかをみる。本論文は、『ア・コース・イン・ミラクルズ』の思想を用いて、『スターガール』という物語を読み解くことで考察をおこなう。

第 1 章では、まだ日本で出版されていないことから、あまり知られていない『ア・コース・イン・ミラクルズ』の概要をみる。

第 2 章では、私たち現代人が不安感や孤独感に苛まれている理由を、上田紀行の主張に基づき、いのちのつながりに気づけなくなっていることを問題として、それを癒す道筋を『ア・コース・イン・ミラクルズ』でくわしく述べる。

私たちは、本当はつながりあう一つの存在であるが、「エゴ」という殻が邪魔しており、他者と分離してしまった。分離しているがゆえに、孤独であり、いつも不足感を感じることとなった。だが、それらは幻影であり、本当の私たちは今も愛の存在であり、他者とつながりあい、神ともつながっている存在だと『ア・コース・イン・ミラクルズ』はいう。

エゴは愛と共存することができないので、私たちが愛を思い出すことがないよう、策略をしている。『ア・コース・イン・ミラクルズ』の意味するエゴとは、一般的な意味とは異なり、「怖れ」とも言い換えられる。エゴの策略である、罪意識・投影・批判というステップを経ることで、私たちの罪悪感は一層増し、分離も強化されることとなる。それらの悪循環を断ち切り、癒しをもたらす手段として、「奇跡」がある。

奇跡とは、間違った知覚を癒し、エゴによって囚われた私たちを解放する手段である。その手段は、「ゆるし」を通してもたらされる。ゆるしとは、過去の怖れに満ちた思いを手放し、現在という瞬間を愛に満ちた思いで生きると選択することである。ゆるしを通して愛の表現を行なった時、奇跡が起きる。奇跡によって知覚の変換がもたらされ、私たちは自分の本来の姿である愛としての存在を思い出すことができる。その時、エゴという殻は消えており、他者や神との一体感の中で安らぎを感じることができるのである。そして私たちが一つであるように奇跡も一つであり、誰かが奇跡を行なえば全てのものが含まれ、癒される。

第 3 章では、『ア・コース・イン・ミラクルズ』のいう「奇跡をおこなうもの」の考察を『スターガール』という物語を読み解くことで行なう。

本論文の結論は、以下のとおりである。

個人の内的平安は、愛の見方を選ぶことにより得られるが、愛の見方の選択には、まずゆるしによって、過去の怖れに満ちた思いを手放すことが必要である。

そこで、他者と共に平和な社会で、平安に生きていくためにまず必要なことは、個人がゆるしを選択することである。愛の見方を選んで愛を表現するということは、ゆるしを選択し続けることで為し得ることである。